

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年11月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795400023		
法人名	株式会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡アネックス		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡中一丁目5番26号		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月29日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成22年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成21年11月開設の事業所である。地域密着ができるよう運営推進会議などで自治会や地域の催しなどへの参加を伝えている。(ホーム主催の地域餅つき大会・忠岡町ふれあい大会・介護保険事業所展示会などへ参加)外出や日々の食事などで季節に応じた催しや食事メニューなどを共に考え積極的に利用者様と職員が楽しく安心して健康的に日々過ごしていただけるようしている。(好みの衣類等を共に買いに行く。調理や配膳等を行っている。居室の掃除、玄関周りの掃除、花の水やり等を共にやっている。日帰り旅行や喫茶店、カラオケ等へ行くようにしている。誕生日には本人の興味関心のある事を担当者が聞き可能な限り実現できるようにしている。)・各居室が本人の自宅となるように本人の馴染みのあるもの愛着のあるものを配置するようにしている。(居室の品を共に買い物に行ったりしている。)利用者スタッフが家族のような関係を築けるよう居室にてコミュニケーションを図ったり、生活歴や性格をふまえた個別での対応を重要視している。忠岡町の入所・通所施設の介護保険事業所で発足している介護保険事業所連絡会に属している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

現在の事業者は、平成21年11月に他法人から継承した。引き継ぎ当初から運営理念や基本方針の改正が行われたが、旧体制に慣れ親しんだ職員から1人の離職者を出すこともなく、現在の体制を構築してきた。職員の平均年齢は30代と若く、様々な面で意欲的に運営に取り組んでいる。地元の代表者や行政関係者らの参加による運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、事業所の行事はもとより地域の催しへの積極的な参加を行うなど、地域に馴染み、溶け込みたいという理念に基づいた活動が見られる。また、日常の散歩の他、近くのスーパーマーケットへの買い物、喫茶店や寿司屋、カラオケ店など外出の機会を多く取り入れ、近隣住民への周知、馴染みの関係の構築を図っている。事業所内は大変日当たりがよく、利用者は明るく清潔感の漂う食堂兼居間で日中を過ごしている。食事においては利用者が調理、配膳を手伝い、また畑づくりや花の水やりなど、各自が自分の役割をもちながら、生き生きとした生活が送れるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員入職時に管理者から理念を説明している。またホーム内に理念を掲示している。全職員は名札に理念を携帯することにより、職員への周知及び理解はもちろん利用者家族へも広報誌にて公開している。	「愛のある我が家のような生活をめざします」「自由な環境を創造します」「安心と信頼のホームを実現します」を理念に掲げて日頃の運営に当たっている。事業所内での掲示、名札裏面や「アムール便り」への掲載により、職員はいつでも理念の確認が容易に行え、理念の共有とその実践に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に自治会長・民生委員などの方が参加され地域の催しなどの参加を依頼している。自治会に入会し回覧板や地域の広報誌が配布されている。地域の理美容店や喫茶店、カラオケ店などに出向き、利用者が気軽に訪れることができる環境を作っている。	運営推進会議を通じて忠岡町の行事への利用者の参加を依頼するなど、地域の一員として積極的に交流の機会がもてるよう取り組んでいる。これまでもホーム主催の「餅つき大会」に地域住民を招いたり、「盆踊り」「ふれあい大会」「作品展」などの地域の催しに利用者とともに参加している。また、日常的に外出の機会を多くすることで、地域住民との接点を増やし、地域と利用者のつながりが深められるよう、事業所を上げて取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症についてや地域になぜ密着する必要があるのか等理解を促している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の利用状況、利用者数、行事、研修報告、事故報告やまた問題点等の報告を行っている。	2ヶ月に1回のペースで開催している。地元老人会会長、自治会長、地区福祉委員会代表、民生委員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員らが参加し、事業所の状況報告、行事や研修、地域への取り組みなど様々な議題について話し合いが行われ、それらの内容は全体ミーティングなどで報告され、日頃のサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議への利用者の家族の出席が見られない。運営推進会議の意義を家族にも伝え、少なくとも家族の代表に参加してもらえる会議となることを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	空床情報、入居相談、困難事例等報告、事故報告など相談している。スタッフの殆どが認知症サポーターとなっている。	平成21年11月開所時から、忠岡町の協力を得て、町外からの利用者の受け入れを行ってきた経緯があり、運営推進会議をはじめ様々な場面で、町との連携が図られている。さらに、2、3ヶ月ごとに開催されている忠岡町事業所連絡会にも参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを常時確認出来る様にしている。 ・玄関ドア施錠、行動の制限を含めて身体拘束にあたることをミーティングで話し合い拘束しないケアを心掛けている。	併設の小規模多機能居宅介護事業所（1階部分）と共用の表玄関には日中は鍵をかけていない。2階のユニット出入口は、職員自身は施錠を身体拘束と認識しているものの、日中であっても人員配置によってはやむを得ず施錠をしている時間帯もある。	2階のユニット出入口については、日中に施錠をしなくても安全なサービスの提供ができる介護体制の充実を期待する。	

7	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	大阪府社会福祉協議会が主催の研修などに参加し参加者が他スタッフに研修報告を行い防止に努めている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大阪府社会福祉協議会が主催の研修などに参加し参加者が他スタッフに研修報告を行い防止に努めている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時に、管理者より説明を行っている。法改正等の際にも説明を行い、同意を得ている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見箱を設置し意見を求めている。	玄関に意見箱を設置しているものの、意見や苦情が寄せられたことはない。家族からの意見は、家族の訪問時や電話で連絡する際に聞き取りを行うにとどまっている。	意見箱だけでなく、もっと意見を出してもらいやすい対策を講じていくことが大切である。面会簿を利用したり、運営推進会議への参加を呼びかける時に、意見を汲み取る工夫を行うなど、積極的な取り組みを期待したい。
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎月全スタッフで全体ミーティングを行っている。そこでは必要に応じてホームの収支報告も行っている。また、必要に応じて管理者とスタッフ面談を行っている。	ユニットミーティングや全体ミーティング（各月1回開催）では職員が意見を述べやすい環境を整えている。運営に関する意見等はミーティングで話し合わせ、運営に反映させている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与時に職員の評価を行っている。適材適所を考慮し、必要に応じて適正試験を行い事業所内及び社内人事異動を図っている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に社内勉強会や社外研修への参加を促進している。 法人事業所間での相互研修を行っている。 OJT研修への参加を積極的に促している。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>忠岡町の全介護保険事業所にて連絡会を開催しその中で意見交換を行うと共に広報誌や町の催しに共同参加している。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人の要望や生活歴、環境などを事前に聞き相談記録へ残し、ケアプランや判定会議にて全職員へ周知し利用者のリロケーションダメージが最小になるよう努力している。以前、自宅で使用されていたタンスなどを持参していただいている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の思いや意向を聞き相談記録として記録に残し、また随時相談にのれることを伝えている。重要事項説明書にも記載し説明している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームはあくまでも自宅ではなく、長期滞在型のサービスであることを伝え、自宅での生活継続を望まれる方に関しては、小規模多機能サービスや他サービスの説明などを行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人が必要な存在であると感じてもらえるよう調理や掃除、買い物等の手伝いを役割として行っている。また、ご本人の要望などもさりげなく傾聴し提供できるよう努めている。（入浴時や散歩時一人の時に）他利用者との関係づくりの支援を行っている。（喫茶店に個別に行くなど）</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用時にご家族の協力がなければよい介護が困難であることを伝え、面会や外出外泊など可能な限り行っている。またケアカンファレンスに必要な応じてご家族の参加を促している。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店などへの声掛けを行いその人らしい生活が送れるよう支援している。居室に電話がひけるようにしており、外部と連絡が取れるようにしている。また、生活暦で近隣の方との交流があった方に関しては、面会の依頼をしている。以前墓参りをされている方に関しては、可能な限り提供している。	ほとんどの利用者が他市町村からの受け入れのため、忠岡町には馴染みの場所や人がなく、入居後に事業所の近隣で馴染みの関係が形成できるよう外出等の機会を多く作っている。かつての馴染みの人や場所については、友人の来所を積極的に働きかけたり、かつての馴染みの美容院から出張してきてもらうなど、事業所としてできる限りの取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の座る位置等に考慮している。利用開始時にはスタッフが間に入り利用者同士がコミュニケーションを図れるよう支援している。必要に応じて部屋替え等を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や医療機関へ転居入院する場合はサマリーなどにて情報提供を行っている。退去後も必要に応じて面会を継続している。退去後も家族が相談し易い関係を築いている。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に一人ずつ担当者を設け、各々の生活歴や趣味活動などの把握に努め提供している。意思疎通が困難な方に関しては、ご家族や親類などから情報を得ている	担当制を設け、職員が担当の利用者や家族等から本人の希望や意向を聞き取り、日々のケアに活かしている。これらの情報はケース記録に記録し、職員間で共有しており、例えば園芸、手芸、生け花、ドライブなど個々の希望に合わせたケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	相談記録を用い利用前の段階から生活歴や社会資源などを把握する事に努めている。また、入所後（約1ヶ月経過後）に以前の担当者（ケアマネージャーなど）へ現状報告をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝血圧・検温・脈などを測り熱計表に記録している。また、生活状況や周辺症状については、カルテ（2号用紙）に記入し心身の状態を把握周知するようにしている。健康面では、受診や往診など健康状態を医療要約に記録し把握に努めている。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを管理者、計画作成担当者、担当者その他関係者（居宅療養管理指導提供者など）等で開催している。ご本人が何を求めているか、望んでいるかなど担当者が日々のコミュニケーションを通して把握し必要に応じて代弁している。	家族等の意見や要望は、概ね1月に一回の来所時に聞き取っている。利用者本人の意向等は日頃のケアの中で把握し、介護計画の見直しの際には、家族等の意見や要望等を反映させている。ケアカンファレンスには家族の参加も呼びかけているが、実際に家族が参加しているケースは少ない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝血圧・検温・脈などを測り熱計表として記録している。また、生活状況や周辺症状については、カルテ（2号用紙）に記入し心身の状態を把握周知するようにしている。健康面では、受診や往診や健康状態を医療要約に記録し把握に努めている。個別性獲得シートを用い介護計画作成に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調などに問題はないが、食事量などの低下が確認された場合など、喫茶店や外食などを行い気分転換を図れる環境を作っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会長・民生委員などが参加され地域の催しなどの参加を依頼している。自治会に入会し回覧板や地域の広報誌が配布されている。地域の理美容店や喫茶店、カラオケ店などに出向き、利用者が気軽に訪れることができる環境を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医（主治医）はご本人ご家族の希望に沿っている。往診を求められる方が多く、協力医療機関などへ相談し往診を依頼し協力を求めている。	利用者や家族等の希望する適切な医療が受けられるよう支援している。ほとんどの利用者は事業所の協力医療機関である近隣の診療所から月2回往診してもらっている。また、24時間いつでも診察してもらえる別の医療機関とも協力関係を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	開設時より正看護師を配置しており常に相談出来る体制を構築している。訪問看護STと契約しホームスタッフと密に連携を図っている。受診や往診時にはスタッフが付き添い看護師との相談内容なども主治医等に必要に応じて伝えている。訪問看護師によるバイタルチェックを行っている。医療関係に関しては、医療要約よして記録している。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関のSWや医師と密に連携を図り、退院時期の調整などを図り、可能な限り早期退院に向けている。環境の変化が最小限で抑えられるように努めている。 入院時必要な情報を提供している。 退院後の方向性について随時医師、SWなど関係者とのカンファレンスを実施している。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、認知症などの重篤化に対する対応（精神科などの専門科受診などを検討する）事や終末期には主治医への協力を求め可能な限り、少しでも長くホームでの生活を過ごせれるよう支援することを伝えている。また、必要に応じて居宅療養管理指導などを導入しチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期あり方については、事業所の対応方針を文書化し、家族に説明するとともに職員への周知を図っている。重度化した場合は、家族や主治医、その他関係者と話し合うことで方針の統一化を図るようにしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。消防署の協力を得ている。運営推進会議にて協力を求めている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時フローチャートを作成している。緊急通報装置を設置しており火災の場合など自治会長や地域包括支援センターなどの応援体制を構築している。緊急通報装置の連絡先として忠岡町役場がはいっている。	年2回の防災訓練を実施している。消防署の指導により、職員は水消火器を使用し、避難訓練等を行っている。災害時には地域住民の協力が得られるよう運営推進会議で働きかけている。災害に備えて米の備蓄があり、貯水タンクも完備している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排便等ご本人の羞恥心を損なう可能性のある事柄に関してはの確認を行う際は、居室などご本人が一人になった時など周りに気づかれないようさりげなく行うよう心がけている。また、スタッフが外部で個人情報を漏らさないよう入職時に個人情報保護に関する誓約書を記載している。	人権やプライバシー保護に関する研修には法人内外のものを問わず、多くの職員が参加している。また日頃の声かけが利用者一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、ユニットミーティングにおいて事例検討を行うなど、細かな対応に取り組んでいる。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活（入浴など）はもちろん、外出や喫茶店や外食等においてもご本人にてメニューを決定してもらうなど働きかけている。		

38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間等要望に沿って提供できるように図っている。また、行事などの際には、どこに行きたいかなど聞き出すよう支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の馴染みの美容室や散髪屋に行っている。また、化粧やおしゃれ（マネキュアなど）を楽しめるよう支援している。ボランティアの方にてエステが行われたことがあり、皆様喜ばれていたため、今後もボランティアの慰問を検討している。近隣の洋服店に買物に行き、本人の好みのものを購入している。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が基本的なメニューを作成し栄養管理を行っているが、調理は可能な限り共にできるようにしている。下膳や配膳なども可能な方に関しては行ってもらい、また菜園している野菜を食材に生かしている。	利用者と職員と一緒に調理、配膳、食後の後片付けなど行っている。食材は、職員と利用者が一緒に近くのスーパーマーケットへ買出しに行っている。職員は利用者と一緒に楽しく話をしながら同じものを食べている。庭の菜園で採れるトマトやキュウリなどの旬の野菜は食卓を彩り、食事をさらに楽しいものにしてきている。また、月数回のペースで寿司屋やモーニングサービスを目当てに喫茶店に出かけたりもしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は栄養士がメニューを作成し1500～1600Kcalの摂取量としている。1日の水分量をチェックしている。月1回、体重測定（主治医の指示より数回の方もいる）を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は義歯洗浄剤にて洗浄している。起床、就寝前に口腔ケアを行っている。また毎食後うがい又は必要な方には歯磨きを促している。希望されている方は提携歯科にて月に4回口腔ケア（居宅療養管理指導）を実施している。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	いつもと異なる動きなどの変化に気づいた場合はさりげなくトイレ誘導するなどしている。おむつはその人に応じたもの（1回尿量の多さなど）を使用するようにしている。また、1日の尿量を観察し必要に応じて定期的にさりげなく誘導している方もいる。	排泄パターンを記録することにより、利用者一人ひとりの尿意や尿量を把握し、可能な限りトイレでの排泄が気持ちよくできるように支援している。リハビリパンツやパット等を使用しながら、個別の対応を心がけ、自立に向け支援している。	

44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取状況を把握している。必要に応じて腹部マッサージや主治医と相談し穏下剤などを使用している。また、散歩やラジオ体操や階段昇降などの運動を行っている。食前に嚥下体操を行っている		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間の融通を行っている。要望に沿って入浴剤の使用を行っている。可能限り同姓介助を行っている。	利用者一人あたりの入浴回数を週2回（午後6時まで）と設定しているが、希望により柔軟に対応している。利用者によっては、希望により入浴剤を使用しているケースもあり、また可能な限り同姓介助に努めている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	覚醒時間や睡眠時間のチェックを行っている。定期的なシーツ交換（週一回）を行っている。ご本人の枕、毛布、衣類を使用し在宅での環境を損なわないようにしている。また、夜間覚醒時には必要に応じて添い寝や温かい飲み物の提供などを行っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明、用量、副作用は薬説明書を薬局から貰いカルテにファイルし全スタッフ周知している。必要に応じて居宅療養管理指導を導入し連携を密に図っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の情報や入居後得た情報を元に、ご本人の楽しみや得意分野（調理・手芸・買物など）に沿った支援を行っている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望に沿い近隣の喫茶店や店舗への買い物、季節に応じた外出先を共に検討し外出している。また、必要に応じて車椅子を使用し負担の軽減に努めている。利用者の誕生日には、特にスタッフとマンツーマンにて本人希望の場所や物を提供している。	日常的には職員と一緒に忠岡神社等への散歩や近隣のスーパーマーケットや洋装店への買い物、近くの喫茶店やカラオケ店など盛んに外出支援を行っている。また、公衆浴場やイチゴ狩り、利用者の誕生日には外食するなどの希望に添った支援も行なっている。和歌山方面に1泊旅行の計画も検討している。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の同意の元、ご自身でお金を管理されている。ホームにて原則お小遣い管理をしているが、買物に行った際などご本人にて支払いをしてもらっている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状等季節の挨拶をご家族などに出している。希望に応じて電話を居室に持ち込み可能としている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや音楽の音量は不快に感じない音量にて行っている。ヒーリングミュージックを流している。湿度温度計をフローアに設置し適温になるよう配慮している。</p>	<p>共用空間である食堂兼居間は、日中は大変日当たりがよく、明るく居心地よく過ごせるスペースとなっている。その一画の和室には大型テレビが設置されていて、利用者はその前のソファに座って好きな番組を見ている。ゆっくりと寛ぎたい利用者は廊下の奥にあるソファで寛いでいる。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを置くなどして一人で過ごしたい時間があるときの空間作りを行っている。また、庭にて寛げる環境を作っている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>愛用品の持ち込みをしていただいている。（寝具や家具、写真など）他必要な物品がある場合は一緒に買い物に行き購入している。</p>	<p>ベッド、クローゼット、カーテン、照明器具は備え付けとなっており、その他の調度品などは利用者が好きなものを持ち込める。居室には毎月利用者が作ったカレンダーや家族の写真、絵画、テレビ、配偶者の遺影、タンスなどが置かれている。希望により電話を引いている利用者もいる。以前ジャズ喫茶を営んでいた利用者は当時の看板やレコード等で居室入り口と内部を装飾し、ジャズ喫茶さながらの雰囲気を醸し出した設えとなっている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内には手すり、エレベーターを設置しているが、階段昇降が可能な方は階段を使用している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	②	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない